



母校創立百周年を祝う

校長 鳴海 靖郎
 明治35年 東京府立第三高等女学校創立されたことを心よりお祝い申し上げます。
 20世紀の歴史と共に歩んできたと言え本校は、明治、大正、昭和を経て平成の時代へと歴史を刻み、21世紀への新たな第一歩を踏み出すことができました。この間、麻布の名門「第三」としての榮譽



理事 中江 千恵
 本校創立百周年、最大の周年祭を迎えることになりました。



府立(都立)第三高等女学校が約50年、都立駒場高等学校として約50年の積み重ね、伝統の重みを感じると共に長い歴史を振り返る良い機会を与えられたと思っています。
 学校が出される記念誌に松桜会からも編集委員が参加しておりますが、百年の流れ、変化、各世代の特色等、素晴らしいものができると思います。

駒場松桜会会報

第70号
 2002年4月1日発行
 発行所 駒場松桜会
 〒153-0044 東京都目黒区大橋2-18-1
 都立駒場高等学校光榮部
 電話 03-3466-7579
 振替 番号
 00190-8-28486



松桜会では、5年前から百周年実行委員会を設置し、行事・事業等いろいろ考えて参りました。昨春秋にプレ祝祭としての音楽会を東京オペラシティ・コンサートホールで行い、華やかに幕を開けることができました。
 平成10年からお願いして参りましたご寄付、多くの皆様のご好意、ご協力に感謝申し上げて居ります。お蔭さまで百周年をお祝いする行事・事業を進めることができました。

彫刻家の日高頼子さん(駒9)制作のブロンズ像「馬の歌」を学校に記念として贈呈致しました。正面玄関前の築山に建立し、3月29日に除幕式を行い、4月24日の開校記念日に間に合わせました。

と伝統を築き上げ、その後、戦災による駒場寸前の状況下、必死の思いで駒場の丘に校地を求め、新制駒場高校としての再出発等々、一世紀に及ぶ何れの時に在っても松桜会を始め学校関係者の並々ならぬ御努力と愛校心を支えられ今日を迎えております。関係者の皆様方に深甚なる感謝の意を表すとここで、21世紀は「共生の時代」といわれています。しかし、経済のグローバル化に伴う実力主義、競争化社会が厳しさを増すなかで、個人の持つ能力や可能性が活かされる一方、幼児・児童虐待や凶悪犯罪等の増加が示しているように人間社会の脆弱性が露わら

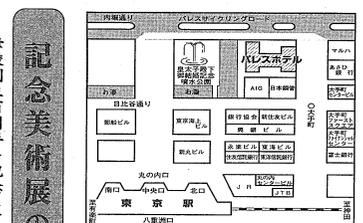
と伝統を築き上げ、その後、戦災による駒場寸前の状況下、必死の思いで駒場の丘に校地を求め、新制駒場高校としての再出発等々、一世紀に及ぶ何れの時に在っても松桜会を始め学校関係者の並々ならぬ御努力と愛校心を支えられ今日を迎えております。関係者の皆様方に深甚なる感謝の意を表すとここで、21世紀は「共生の時代」といわれています。しかし、経済のグローバル化に伴う実力主義、競争化社会が厳しさを増すなかで、個人の持つ能力や可能性が活かされる一方、幼児・児童虐待や凶悪犯罪等の増加が示しているように人間社会の脆弱性が露わら

どうぞご見学いらして下さい。
 又、開校記念日に近い5月18日に母校創立百周年祝賀パーティーを開催致します。歴代の校長先生始め懐かしい先生方をお迎えして、青春時代を語り、又、先輩後輩が久し振りに旧交を温めていただけたいと思います。
 百周年に関する行事、事業はこの会報に記載されており、皆様は、この会報にご参加をお待ちしております。



記念美術展のご案内
 母校創立百周年を記念して恩師の先生及び卒業生の作品を展示し、同窓会のみならず、広く一般の方々にも鑑賞していただきます。

会場 目黒区美術館 区民ギャラリー
 目黒区目黒2-4-36
 電話 03-3714-1201
 会期 2002年6月5日(水)から9日(日)まで
 午前10時から午後6時
 ※但し、最終日9日は午後3時までとなります。



祝賀パーティーのご案内
 母校創立百周年を祝い、恩師の先生方と卒業生を主体とする祝賀パーティーを開催いたしますので、ご案内申し上げます。

日時 2002年5月18日(土) 午後4時開会
 会場 バレスホテル・ローズルーム
 (電話 03-3211-5211)
 千代田区大手町1-1 皇居大手門前
 会費 8,000円 同封の振込用紙にて年会費と共に、4月末までにお支払いください。
 振り込みいただいた方を出席者とさせていただきます。

21世紀に明るい展望を持ち、共生の時代を築いていくには、退しさを兼ね備えた頼もしい人間の育成が肝要と考えます。駒場高校は、これまでに社会や芸術、スポーツ界などで活躍する頼もしい卒業生を多数、世に送り出してきました。今後、文武両道を意識した教育の実践が駒場高校に最も相応しいものと考えられるところで、おわりに、「第三」から「駒場」へと受け継ぎ、育んできた輝かしい実績と伝統に新たなページを加えていくため、今後とも変わらぬ御支援をお願い申し上げます。

母校創立百周年 記念特集

今回は、母校創立百周年を記念して次のような特集号にしました。

- (1)第三・駒場の百年小史 (3面)
(2)第三としての50年 (4・5面)
(3)駒場としての50年 (6・7面)



(2)21世紀の駒場高校・同窓会へのメッセージ (8・9面)
(5)懐しい先生方は今、どうしていらっしゃるでしょうか (10・11面)

第三・駒場の百年小史 (読む年表)

1902年(明治35) 4月24日府立第三高等女子学校の第1回入学式。校舎は未完成、鳥居坂にあった私立聖徳女学校校舎で授業開始。1年3クラス、2・3年は各2クラスであった。2・3年生は入生。北口ヶ窪に校舎が一部完成したの9月末に移り(現六本木)、10月本校舎完成。
1905年(明治38) 3月28日第1回入学式。
1909年(明治42) 良妻賢母主義に基づく花嫁教育を担った補習科(1年制)が創設された。(大正10年まで続いた)
1913年(大正2) 4月24日を創立記念日と定めた。
1920年(大正9) 3月修学旅行はじまる。京部・伊勢ヶ丘38日
1921年(大正10) 修業年限2年の高等科が設置され、第1回卒業は大正12年3月、以後第27回同窓会と24年3月まで継続された。
1922年(大正11) 創立20周年に同窓会より記念館1棟を寄付した。
1925年(大正14) 9月3日校舎に暖かわり標準服を定めた。
1927年(昭和2) このころから現在まで引き継がれているセーラー服となる。(スカートは現在よりかなり長い)
1933年(昭和8) 10月8日香淳皇后崩御の御学園所が下り、仰光寮と名を付ける。
1938年(昭和13) 2月19日体育館完成。戦災をのがれ、戦後麻布税務署を経て、平成9年老朽化により取り壊される。体育館の大時計は第三駒場六本木中学のプールサイドに復元され、設置されている。
1942年(昭和17) 上級生から勸学班仕に出る。
1943年(昭和18) 7月1日制に限り、都立第三高等女子学校と名が変更された。
1944年(昭和19) 4月10日・5年生は凸版印刷専ら勤務員、3年生以下は教員で戦時職の部品製造が始められた。
1945年(昭和20) 東京の空襲がはげしくなり、東京都から仰光寮を死守せよとのことで、仰光寮を東京から守るため隣接する木造の作法室を壊した。5月23日夜から24日未明にかけての空襲時には、防空室の最先3名、生徒10名が爆火の中、手押しボンプ1台で火災から仰光寮を守った。校舎は全壊であった。8月15日仰光寮で終戦の大砲を聞く。12月3日麻布の轟五郎、東洋英和女学校、その後小学校を借りて分散授業が開始する。
1948年(昭和23) 9月4日駒場の陸軍戦車連隊の兵舎への移転を決定。第三を用い同窓会としては、僅け行った仰光寮のある北口ヶ窪への愛着があったようだ。
1948年(昭和23) 3月4日新制度により、校名が都立第三女子新制高等学校となった。

1949年(昭和24) 4月12日男女共学制により男子2名が入学。同時にホムム駒が決定、生徒が担任の先生を選ぶことも行われた。
1950年(昭和25) 1月28日校名が都立駒場高等学校となる。校名については、多数の名前が候補になったが、仰光、火橋、駒場の三つに絞られ、最後に駒場に決定された。この年は校名の変更と共に特記すべきことは、4月より①公立としては全国初の保健体育科と芸術科の設置②普通科の定員が女子200名、男子100名となり、多数の男子の入学③新制中学校の入学であった。2・3年生は第三女子に入学生徒であった。
1951年(昭和26) 5月31日創立50周年記念の図書館が竣工し、開館。11月11日同窓生からの寄付を募り、松坂会により仰光寮が麻布から移転落成。
1953年(昭和28) 待ち望んだプールが9月6日竣工。昭和32年には体育館も完成。
1955年(昭和30) 5月16日松坂会により駒場幼稚園が開園。
1958年(昭和33) 第3回アジア大会のエキシビジョンとしてロンドンに卒業生、在校生2500名で派遣。
1960年(昭和35) 鉄筋3階建の1号館完成。
1963年(昭和38) 4月鉄路校舎の全工事を完了。木造兵舎から開放された。新校舎の完成を待って1年遅れで創立60周年記念式典と祝賀会が挙行政された。記念誌刊行。
1967年(昭和42) 学校群制入試が開始され、都立高校への評価の変化が始まる。
1969年(昭和44) 大学紛争、70年安保、沖縄問題で駒場も学級紛争が起る。
1972年(昭和47) 芸術科が都立芸術高校として、母校側に分離独立した。普通科1年生(駒27回生)より男女同校の定員となる。
1974年(昭和49) 全学年男女同校となる。昭和24年に少数の男子の入学から四年世紀が経過していた。
1982年(昭和57) 学校群制度廃止。創立80周年を迎えて、5月には松坂会では祝賀パーティー、学校側では記念式典と祝賀会を10月に挙行政した。記念誌刊行。
1990年(平成2) 9月に、プール、体育館等から取り壊し、新しい校舎の建設が始まる。
1993年(平成5) 第1期工事として、現在の本館、27アリーナプール棟が完成し、4月から使用開始。翌年3月には第2期工事として第1アリーナ、食堂、生徒ホールが完成。
1994年(平成6) 第3期工事は、外構等が整備され、3月に全てが竣工。11月28日に竣工記念式典が挙行政された。
2001年(平成13) 10月25日創立百周年のプレ祝賀音楽会を松坂会が主催した。(2面参照)
12月1日には、保健体育科創設50周年記念式典と祝賀会が挙行政された。(7面参照)

創立百周年記念 行事・事業予定

- 記念行事
①祝賀パーティー (1面参照)
②記念美術展 (1面参照)
③学園祭への参加 (詳細2次)
④コチロン大会 (詳細2次)
⑤ジョイントコンサート
⑥プレ祝賀音楽会
⑦創立百周年記念式典

- 記念事業
①ブロンズ像寄贈の除幕式
②記念絵巻制作
③記念誌発行支援 (学校主導)
④記念名簿発行

母校創立

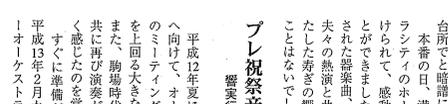
百周年記念事業募金

母校創立百周年記念事業募金に多くの皆様をお寄せ頂き、有難うございます。平成13年8月1日平成14年1月1日までの間に、五百五十万円の募金を頂戴いたしました。お礼の挨拶の協力をお願いいたします。

Table with columns for school names and donation amounts. Includes names like 大田智恵子, 御園生倫子, 山内真砂子, etc.

プレ祝賀音楽会に出演して

母校の創立百周年のお祝いのお席に参り加えて、プレ祝賀音楽会の出演に参り加えて、プレ祝賀音楽会の出演に参り加えて、プレ祝賀音楽会の出演に参り加えて...



プレ祝賀音楽会に出演して 実行委員会委員長 60歳 斉藤 彩子

プレ祝賀音楽会に出演して

母校の創立百周年のお祝いのお席に参り加えて、プレ祝賀音楽会の出演に参り加えて、プレ祝賀音楽会の出演に参り加えて、プレ祝賀音楽会の出演に参り加えて...

- 記念事業
①ブロンズ像寄贈の除幕式
②記念絵巻制作
③記念誌発行支援 (学校主導)
④記念名簿発行

第三としての50年

一九〇二年明治治から一九五〇年昭和25までの約半世紀、母校は「第三女」とした。第三時代に在学した同窓生の大半は5年間を女の園で勉強に勤かに励んだ。思春存分第三の気分を満喫した。戦争の荒波の中でほとんど通学できなかった学年、疎開もあり戦後の校舎の無い時代もあった。しかし当時の日本で最高の女子の教育を受けたと思っ、始まったのは、9月7日からである。

工事は更に、北棟、本館、南棟体操教室、作法教室と続けられ、翌年10月30日、新築落成式が盛大に行われた。工費は10万4千円であった。

時代の滲養
時代は、日英同盟が成立し、日露の風雲も次第にあやしくなっていた頃である。こうした中で、当時の女子教育に対する国家の要望は、明治22年(一八九九)に公布された高等女学校令に見ることができ、

第一条には、「高等女学校ハ女子ニ須サテル高等教育ヲ為スヲ以テ目的トシ、特ニ國民道徳ノ養成ニ力メ、婦徳ノ涵養ニ留意スヘキモノトス」とあり、更に施行規則には、「殊ニ國民道徳ノ養成、婦徳ノ涵養ニ關連セル事項ハ何レノ學科目ニ於テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス」と述べられている。要するに女子の教育は、大日本帝國の忠良なる臣民の妻として母としての婦徳を磨くことが第一とされたのである。

足が大きくなる学校
初代小林盈校長は、単なる良妻賢母主義でなく、20世紀の時代に

対して明治42年補習科(大正10年より2年制高等科に引き継がれ昭和24年まで存続)を配置し、専門学校(現大学)程度の教育を受けたい者に「教育」の措置であった。教授科目に「教養」(本科5年週一回、高等科は週2回)があったこととは特筆すべきことである。



昭和36年(一九〇三)11月14日、第一回の運動会が行われた。婦女

ふさわしい女性として、その天職と責任を自覚させることを教育の目標とした。開校式の講話の中で、健全な四肢五体の発育が、知能をいかに源であり、幸せをもたらすものであることを述べている。したがって運動を奨励し、体力の充実に力をいれた。均整のとれた発育を考慮して、ボールゲームやダンスなどを取り入れた。

テニスとはよりクリケット、ホッケーなども試みられた。テニスコートは、正式のもの2面、練習用3面あり、熱心な者は休憩時間をもとめて放課後も暗くなるまで白球を追った。

こうして運動で鍛えられた生徒たちの姿に、第三と言えば「一足大きくなる学校」と言われたことであつたと聞く。



昭和36年(一九〇三)11月14日、第一回の運動会が行われた。婦女

新聞(18号)には次のように紹介されている。
「開校以来第一回の運動会にて指揮者も競技者も場不馴なるに問わず遺憾なく演ぜられたり。最も面白かりしは徒歩競争・五色旗送り・綱引き等に於て共に燃る活発。当日は非常の好天気なりし為、来賓席も立錫の地なきまで盛會なりき。余事なれども同校庭に備え付けられたる徑一間許の大地球儀は頗る有益。庭後の高台にある太田道灌手植の榎その他樹木に悉く札を下げて説明したるは注意周到と言ふべし」

また卒業生の思い出話によればこの時は在校生は4年生までで学年毎にダンスが行われたそうだ。1年生はカドリー、2年生はカドリー、3・4年生はランサリス。紅白のたすきをかけ、袴をつけ靴をはき、靴から袴の裾までを五寸程離して裾の線を揃えるようにして踊った。

その後第三の運動会は、追々有名になり、見物人も溢れる程であった。
入場券やダンスの時には、軍楽隊の演奏にあわせて颯々と行動して拍手喝采を浴びた。また後に行われる先生方のセンターボールの試合が満場を沸かした。
入場券には「青年男子入場を拒絶す」と注意書きがあった。入場券のない者は、周囲の塀や木に登つて見物したという。
通学
はじめは、馬車や人力車で通学する者もかなりあったようだ。降雨の折には校門前が迎えの車で混雑し、また体力を重視する学校の方針に反することから、徐々に止めさせるようにした。まだ電車の通っていない所も多い頃で、三田や品川あたりからも、皆徒歩で通学した。

形づくられていった伝統

このような第三高女伝統は、高等女学校令(明治32公布、同43改正、大9中改正)、同施行規則(明治34公布、同43改正、大9中改正)にのっとりた学校運営であった。ことに、初代小林盈校長の、両性の半分である女子の自由独立の精神を養う理念に貫かれ具現した姿であった。「一足大きくなる学校」はその象徴的表現で、創立当初より毎週一回課外遊戯を行うこと、校友会を発足し、学芸練習と体操遊戯練習を隔週に行うこと、学年別の遠足、大正12年には富士登山(以後淺間、白馬、赤城)と昭和4年には明治神宮外苑天苑マラソン出場(以後体操ダンスなど集団で参加)などによって形づくられていったものである。



昭和18年(一九四三)の特設防護団編成。その訓練の様子が「東京人画報」10月号に載った。11月東京の疎開が始まった。

状態であった。校長は、「一、二、三、四、五代と変わった。三代広瀬雄校長の代には校友会が新組織になり、生徒中心の活発な活動が行われるようになった。仰光寮拝領はそのころ、昭和8年(一九三三)である。

しかし日華事案が始まるや、国民精神総動員運動が起こり、戦争の渦に巻き込まれていく。昭和13年「国民総動員法」が公布され、軍需品製作の作業が始まった。昭和



昭和16年(一九四一)、小学校は国民学校と改称。12月太平洋戦争に突入。国家総動員法による国民動員報告協力令施行規則に基づく学徒出動命令が出され、1年に10日間の勤務奉仕が命じられた。(5年生6月下旬、4年生9月下旬に、17年印刷下谷工場に出動。昭和17年(一九四二)、本土初空襲。

昭和18年(一九四三)、特設防護団編成。その訓練の様子が「東京人画報」10月号に載った。11月東京の疎開が始まった。3月、41回生は4年で卒業修了(くりあげ卒業。工場勤務となる。5月から学校工場化の実施が進み、作業が多くなる。8月開議は国民総動員法を決定。学徒勤務令、女子挺身労働令公布。2年生も作業に従事。学童集団疎開開始。生徒も疎開で

15年(一九四〇)、紀元二千六百周年記念事業は「勤労精神の涵養、集団行動の訓練及び情操の陶冶」を目的の三鷹公園開設であった。

昭和16年(一九四一)、小学校は国民学校と改称。12月太平洋戦争に突入。国家総動員法による国民動員報告協力令施行規則に基づく学徒出動命令が出され、1年に10日間の勤務奉仕が命じられた。(5年生6月下旬、4年生9月下旬に、17年印刷下谷工場に出動。昭和17年(一九四二)、本土初空襲。

昭和18年(一九四三)、特設防護団編成。その訓練の様子が「東京人画報」10月号に載った。11月東京の疎開が始まった。3月、41回生は4年で卒業修了(くりあげ卒業。工場勤務となる。5月から学校工場化の実施が進み、作業が多くなる。8月開議は国民総動員法を決定。学徒勤務令、女子挺身労働令公布。2年生も作業に従事。学童集団疎開開始。生徒も疎開で

翌4月には5分の2に減少。11月ごろより空襲も多くなると、昭和20年(一九四五)、戦局悪化による防空宿舎(5人組)が始まる。3月国民動員労働令公布。東京大空襲、江東地域壊滅。4月米軍沖繩上陸。5月日、空襲より北日ヶ原教会(仰光寮)、体育館を残して全焼。瓦礫の山を前に終戦を迎えたのであった。そして2ヵ月後、新教育方針が打ち出され、疎開等から帰ってきた生徒が集まり出し、学校は平常にもどっていくのであるが校舎を失った第三高女は、東洋英和と養正館(有栖川宮記念公園内)、後に算小中学校に分散しての授業となる。

空白の学校史
昭和18、19、20年に在学していたのは、40、41、42、43、44、45回(駒)、46回(駒)、駒3回生たちである。42回生は4年で修業。卒業式は41回生といっしょの昭和20年3月であった。43回生は戦後で、4修でも5修でもよいというので、5年で卒業した人は44回生となる。

疎開、空襲、戦災、勤労奉仕、その間をくぐっての学業だった。
41回生(昭和20年5修) 27名
42回生(昭和20年4修) 27名
43回生(昭和20年4修) 17名
44回生(昭和22年5修) 100名
45回生(昭和23年5修) 29名
うち三女高1回生24名、27名
46回生(昭和24年5修) 40名
駒2回生として25年生20名
その当時の事情は卒業生200名、41回生(麻布の丘より半世紀)

その後第三の運動会は、追々有名になり、見物人も溢れる程であった。
入場券やダンスの時には、軍楽隊の演奏にあわせて颯々と行動して拍手喝采を浴びた。また後に行われる先生方のセンターボールの試合が満場を沸かした。
入場券には「青年男子入場を拒絶す」と注意書きがあった。入場券のない者は、周囲の塀や木に登つて見物したという。
通学
はじめは、馬車や人力車で通学する者もかなりあったようだ。降雨の折には校門前が迎えの車で混雑し、また体力を重視する学校の方針に反することから、徐々に止めさせるようにした。まだ電車の通っていない所も多い頃で、三田や品川あたりからも、皆徒歩で通学した。

文化の面でも、時代に先がけて大正11年劇法、家事、裁縫室(現家庭科室)に電熱装置が入り、展覧会、音楽会、学芸会なども年中行事となっていた。女子教育については、卒業後も学習したい人に

昭和18年(一九四三)、特設防護団編成。その訓練の様子が「東京人画報」10月号に載った。11月東京の疎開が始まった。3月、41回生は4年で卒業修了(くりあげ卒業。工場勤務となる。5月から学校工場化の実施が進み、作業が多くなる。8月開議は国民総動員法を決定。学徒勤務令、女子挺身労働令公布。2年生も作業に従事。学童集団疎開開始。生徒も疎開で

昭和18年(一九四三)、特設防護団編成。その訓練の様子が「東京人画報」10月号に載った。11月東京の疎開が始まった。3月、41回生は4年で卒業修了(くりあげ卒業。工場勤務となる。5月から学校工場化の実施が進み、作業が多くなる。8月開議は国民総動員法を決定。学徒勤務令、女子挺身労働令公布。2年生も作業に従事。学童集団疎開開始。生徒も疎開で

昭和18年(一九四三)、特設防護団編成。その訓練の様子が「東京人画報」10月号に載った。11月東京の疎開が始まった。3月、41回生は4年で卒業修了(くりあげ卒業。工場勤務となる。5月から学校工場化の実施が進み、作業が多くなる。8月開議は国民総動員法を決定。学徒勤務令、女子挺身労働令公布。2年生も作業に従事。学童集団疎開開始。生徒も疎開で

昭和18年(一九四三)、特設防護団編成。その訓練の様子が「東京人画報」10月号に載った。11月東京の疎開が始まった。3月、41回生は4年で卒業修了(くりあげ卒業。工場勤務となる。5月から学校工場化の実施が進み、作業が多くなる。8月開議は国民総動員法を決定。学徒勤務令、女子挺身労働令公布。2年生も作業に従事。学童集団疎開開始。生徒も疎開で

昭和18年(一九四三)、特設防護団編成。その訓練の様子が「東京人画報」10月号に載った。11月東京の疎開が始まった。3月、41回生は4年で卒業修了(くりあげ卒業。工場勤務となる。5月から学校工場化の実施が進み、作業が多くなる。8月開議は国民総動員法を決定。学徒勤務令、女子挺身労働令公布。2年生も作業に従事。学童集団疎開開始。生徒も疎開で

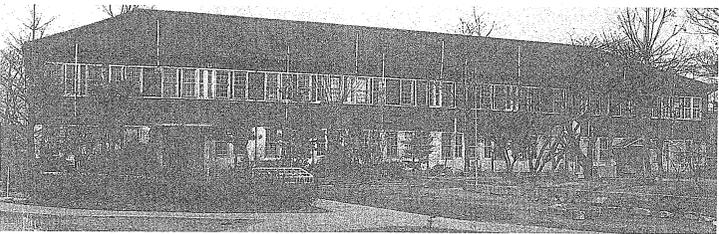
駒場としての50年

一九五〇年(昭和25)1月28日、伝統ある校名は「第三」から「駒場」へと変更された。3月には、昭和19年4月に第三高女に入学した駒22年生が初の駒場高校生で卒業した。なぜか駒1回生は存在しない。昭和24年卒はただ校名が第三女子新制高校時代であった。本来なら駒1回生となるのである。

同年4月に初めて新制中学校卒の駒5回生が入学してきた。同時に公立高校としては全国で初めて保健体育科と芸術科が創設され、普通科と併せて、総合高校の歴史が始まる。大事件は男子生徒がまともに入学して来たことであった。先生方の中にも戸惑いを持たれた方もあった。よほどで、しかし、2年生(駒4)3年生(駒3)は実質的には「普通」の生徒であった。2年後の一九五二年(昭和27)4月新入生を迎えて、全校生徒が新制中学校卒となった。学校の雰囲気も変わり出し、新しい駒場高校の歴史をきざむことになった。

駒場としての50年の歩みの中でその初期の時代で特記すべきことは、次の3点である。①区立の新制中学校を3年間経て入学し、3年間で卒業することになった。また、上級学校への進学が多くなり、母校への思い入れが第三卒の先輩と比較すると薄いと言われることがある。②保健体育科と芸術科が創設された。③男女共学制となった。普通科は女子20名、男子100名の定員で、保健体育科と芸術科は各40名の定員で、男女はほぼ半々である。

男子生徒の取り扱いは慣れないなかった先生方(男の先生でも)もかなり残っておられたようであった。「先生が旧制女学校の伝統をふりまわされると、当然の事ながら全力を挙げて反発しました。抵抗こそ我が生き甲斐でした」と男子生徒は思い出を語る。昭和29年に入学した駒9回の女子生徒の



が倍いるから3人掛けの机の中央に男子を座らせては……との発言があり、賛成多数で採決されました。また、別のクラスではホームルームの時に男子生徒から「男子が女の半数なのだから、



採決の時は男子は票あってもいいのでは……との発言があった。女子校に入学した男子の苦惱もあったが、生徒会やクラブ活動に男子生徒も積極的に入っていた。昭和27年には男子の生徒会委員長も誕生した。今、輝いていた駒場のサッカー部もこの頃に結成されたもので、昨年10月20日には創部50周年記念式典と祝賀会を行っている。

日本経済も昭和30年代に入ると復興し、母校の校舎も木造兵舎の校舎から鉄筋コンクリートに建て変わって行く。第一期工事が昭和35年に完成し、その後2年間引きつづき工事は行われ、昭和37年5月にすべて完成した。昭和37年5月新校舎の状況を駒9回生(昭和38年生)に語ってもらうと「私達

が仰光寮とコチロン(か)が仲間。歴史と伝統の象徴(?)

昭和42年に学校群制度の第一期生の入学、つづいて昭和44、45年の大学紛争の駒場への影響、いわゆる「学園争い」を迎える。学校群制度が昭和47年に廃止された時、都立は既に地盤沈下し、全年代のハイスクールへの輝きは昔話になっていた。当時の先生

当時駒場の生徒だった駒22回生は「我々の過ごした3年間は駒場高校にとってひとつの転機期にあ



たっていたのではないかと。我々は学校群制度の第一期生として入学したが、この制度の導入により都内の高校地帯はすっかり塗り替えられ、それまで各々独自の校風を誇っていたいくつもの高校が、その伝統のろくも崩れ去って行くのを見なければならなかった。その中で駒場も第三高女の時代の校風を、おさくは失って行くかねばならなかっただろう。」駒23回生(昭和48年生)は「駒

もう一つの50年

保健体育科創設50周年を祝う

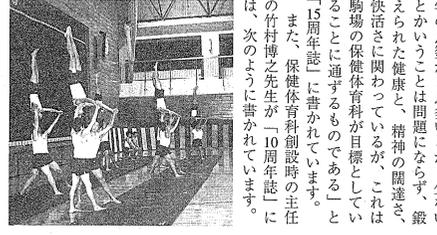
昨年12月

一九五〇年(昭和25)第三から駒場に校名が変更になり、4月から保健体育科が創設され、これは日本最初の公立高校における「保健体育専門課程」の併設であり、それが50年の歳月が流れました。

昨年12月11日(午後2時から)創設50周年の記念式典と祝賀会が挙行され、式典は母校の第一アリーナで行われ、式典後同会場で記念演奏・演技が披露されました。

まずは、駒場フィル(部活のオーケストラで1・2年生だけで94名の演奏、つづいて、保健体育科女子生徒の創作ダンス、男子生徒の組体操、いまでも歌い継がれている「我ら保健体育科」の作詞作曲の篠原正直、落合昌之両氏(共に最後は保健体育科卒の親世流能楽師の津田忠世氏、駒25)及び和佳氏(駒27)兄弟による能楽の演技が披露されました。

祝賀会は同日、駒場エミナース



「創設当時、プール、体育館、陸上競技場もなかった。保健体育科と銘つけて生徒募集をやった。はたして生徒が集まるのかどうか心配でした。昭和24年の秋には各先生方が都内の中学校(主に学区内)を分回してPRに歩いたものでした。そのかいあって40数名の志望者を集められたときはホッとしました。その後若干の消長はありましたが、最近はその消長は4倍にも達する志願者ももち、進学においても、就職においても、よい成績を得ていることは喜びにたえません」

駒場の保健体育科が全国初の体育専門学科として発足以来、半世紀にわたって教育・スポーツ関係をはじめ、社会の様々な分野で活躍する24名の卒業生、平成12年度までを世に送りだしています。

現在、毎年10月中旬に実施されている「保健体育科実技発表会」では、保健体育科の生徒による専攻実技種目と集団演技が披露されます。一度ご覧になってください。感動を与えてくれます。実施日程は学校事務室又は松桜会事務局に照会ください。

駒3卒業50周年記念誌

駒3は昨年11月11日(日)12:15時東京八重洲のホテル国際観光で卒業50周年記念学年会を開催した。...

《松桜会からのお願い》

- 1. 会費納入にご協力をお願いします。例年どおり年会費の納入をお願い致し、振込取扱票を同封しております。...

ロンをBGMに1時間程度の歌謡を奏しただ、再びテープルに着き、「希望のささやき」を最後に閉会となった。...

駒16同期会開催

平成13年11月25日駒場高校創立百周年プレ祝祭音楽会の後、東京オペラシティで駒16の同期会を開催しました。...

駒22同期会17年ぶりに開催

50歳を迎えた駒22の同期会が昨年11月17日、渋谷東武ホテルで開催された。...

掲示板

- ◆「駒影」くえいー駒3卒業50周年記念誌ー 2001年11月11日発行 B5版120頁 頒価2,000円...

事務局から

どうぞご参加を！ コチロンを踊る会 毎月第三火曜日(除く8月、12月)...

計報

吉田 漱先生 平成13年8月21日 西山 き先生 平成13年11月24日...

駒場幼稚園だよ

学校法人駒場けやき学園駒場幼稚園では、今年度から満3歳児クラスたんぼ組を設けました。...